



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
11月	814	368	590	10	5	1,787	669	49	160	234	61	555	3,515
累計	6,717	3,665	4,065	500	35	14,982	6,006	443	1,319	1,883	610	4,154	29,397

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

164 夏至と猫について書かれている本を探している。

『神話・伝承事典』（バーバラ・ウォーカー／著 山下主一郎／[ほか] 共訳 大修館書店 1988）p.122 に「異端審問官ニコラス・レミイ氏は、ネコはすべてデーモンである、と言った。1387年、ロンバルディア人の魔女たちは、ネコの悪魔を崇拝している、と言われた。そのため、キリスト教徒たちは、ときに、魔女と一緒にネコを拷問にかけ、焼き殺した。たとえば、洗礼者ヨハネの祝日、復活祭（中略）といった祝日には、ネコをヤナギの小枝で作った籠に入れて焼き殺すのが習慣であった」とある。

『フランス文化誌事典』（ジョルジュ・ビドー・ド・リール／著 堀田郷弘／[ほか] 訳 原書房 1996）p.354 によれば、聖ヨハネの祝日 6月24日は「夏至祭」ともされている。「聖ヨハネの祝火」の項に、「焚き火の薪の山に二ダースほどの猫をつめこんだ袋を置き、薪に火をつけて、見物人たちがその悲鳴を聞いて気晴らしをするのである。」（p.360）とあり、また、「猫を聖ヨハネの火で焼くのは、子どもだったルイ13世が禁止する日まで続けられた。」（p.361）と記載されている。

その他『猫と魔術と神話事典』（M.オールドフィールド・ハウイ／著 真喜志順子／訳 柏書房 2010）p.137-138「生贄としての猫」、『月夜の黒猫事典』（ナタリー・セメニーク／著 [柴田里芽／訳] グラフィック社 2023）p.27-28「野蛮な祭典」の項目に同様の記述があった。

326.3 「外国人が増えると治安が悪くなる」というイメージを持っている人がいると感じるが、これは事実に基づくものなのか、またその背景や要因はどこにあるのかを知りたい。

『犯罪白書 令和5年版』（法務省法務総合研究所／編集 日経印刷 2024）には「外国人による刑法犯の検挙件数は、平成3年以降増加傾向にあり、17年に4万3,622件を記録したが、18年からは減少傾向にあり、令和4年は1万2,947件（前年比7.9%減）であった。また、外国人による刑法犯の検挙人員は、平成11年から増加し、17年に1万4,786人を記録した後、18年からは減少傾向にあり、令和4年は8,702人（同7.5%減）であった」（p.234）という記述がある。

一方、『在留外国人統計 2022年版』（入管協会 2023）p.2には「日本の総人口と在留外国人数の伸び率を10年前（2011年）と比較してみると、日本の総人口は1.8%減少しているのに対し、在留外国人数は34.8%と大幅に増加している」とある。

上記の資料からは、外国人の増加が治安悪化に繋がるとは必ずしも言えないことがうかがえる。

外国人と治安の関係について触れた資料には『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？』（内藤正典／著 集英社 2019）、『移民の経済学』（友原章典／著 中央公論新社 2020）がある。両書とも、外国人が罪を犯しやすいということは一概には言えないが、移民の恵まれない就業環境が犯罪を生むケースがあるという事を述べている。関連する内容として『外国人差別の現場』（安田浩一／[ほか]

著 朝日新聞出版 2022) では、搾取と差別に苦しむ外国人労働者の環境について述べている。

384.3 幕末の久保田藩で ”新組鉄砲方” というマタギの部隊が編成され戦闘に参加させたようだが、”新組鉄砲方”の事がわかる現代語の資料があれば教えてほしい。

『幕末・維新全藩事典』(人文社 2011) によれば、久保田藩は明治 4 年に秋田藩へ改称している。

『最後の狩人たち』(長田雅彦／著 無明舎出版 2007 千葉県立中央図書館所蔵) p.119 の戊辰戦争の項に「根子地区を見渡す共同墓地に「官軍秋藩 佐藤松五郎墓」「羽後国於 片山村戦死 享年三十三」と彫られた墓石が建っている。一介の阿仁マタギが秋田藩士にとり立てられ、官軍の一員として戊辰戦争(一八六八年)に参加したことを物語る。」「江戸末期、(中略)東北の雄藩は「奥羽列藩同盟」を結成して幕府側についたが、秋田藩は(中略)官軍側にくみし、四方を敵に囲まれた。軍備増強を図って藩が目を付けたのが、阿仁や仙台地方のマタギだった。」「藩ではマタギを士分格として召し抱え、「新組鉄砲方」と名付けた特別部隊を組織した。」との記載あり。また p.120 には「戊辰戦争より五年前のこと。戦雲に備え、すでにマタギ部隊が組織され藩士並みの待遇を受けていたことがわかる。」「元治元年(一八六四年)に佐竹侯が京都御所警護の任に就く際、マタギ部隊を引き連れて上洛したという。」との記載あり。続けて、慶応四年(一八六八年)春に秋田での戊辰戦争が始まり、同年夏に阿仁地方で必死の攻防が展開された際のマタギの活躍が記載されている。

『戊辰戦争の新視点 下』(奈倉哲三／[ほか] 編 吉川弘文館 2018) の「徴発と兵火のなかの北東北の民―秋田藩と盛岡藩の戦争に見る」(菊池勇夫／[著] p.151-170) では、列藩同盟から離脱した秋田藩と同盟軍の戦闘である秋田戦争のうち、秋田藩と盛岡藩の戦闘において村・民衆がどう関わったのかを解明しており、両藩ともマタギや農民・抗夫が兵として組み込まれたことが論じられている。

このほか『秋田マタギ聞書』(武藤鉄城／著 慶友社 1994) にも関連する記述があった。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
382.1	おはぐろの原料は何か⇒『事物起源辞典 衣食住編』(朝倉治彦／[ほか] 編 東京堂出版 2001) p.47-48 「お歯黒」の項には、歯を染める液を鉄片、酒や酢、水から作り、ようじをその液にひたし、その先に五倍子粉をつけて歯に塗ることのほか、松脂で製した役者が用いるものや、近世に「ぬれがらす」という粉薬を溶かして使用するものが考案された、等の記載がある。『日本生活史辞典』(木村茂光／[ほか] 編 吉川弘文館 2016) p.92 「おはぐろ」の項にもお歯黒水と五倍子粉を混ぜて作ったとあり、お歯黒水の作り方や、五倍子粉の原料、お歯黒の主成分の記述があった。	
588	柿から酢を作る方法が載っている本はあるか⇒『手づくりのすすめ』(自然食通信社 2021) p.120-125 に柿酢の材料や容器、作り方がイラストで紹介されていることに加え、岐阜県や大分県の柿酢作りについての記載もある。『酢の絵本』(やなぎだふじはる／編 農山漁村文化協会 2006) p.14-19 には、発酵の科学的な説明も加えながら「アルコール発酵」、「酢酸発酵」、「殺菌と熟成」と順を追って作成過程がされている。	
813.4	グループホームでのレクリエーションでことわざクイズをするのに参考になる本はあるか⇒ゲームのしかたについては、『ちょっとしたボケ防止のための言葉遊び&思考ゲーム集』(今井弘雄／著 黎明書房 2002) p.28-31、『デイサービスワークブック 1』(緒方昭一／編 木星舎 2009) p.108-130 に「ことわざクイズ」の記載あり。ことわざについては、『世界のふしぎなことわざ図鑑』(北村孝一／著 KADOKAWA 2021)、『三省堂故事ことわざ・慣用句辞典』(三省堂 2010) を紹介した。	
911.32	「草の戸をしれや穂蓼に唐がらし」という句の解説はないか⇒『日本秀歌秀句の辞典』(小学館 1995) p.658 に解説あり。芭蕉の『笈日記』が出典。『日本古典文学大系 45 芭蕉句集』(大谷篤蔵／[ほか] 校注 岩波書店 1977) p.184 に注釈があり、『笈日記』湖南之部に記載があることがわかる。『笈日記』は、『日本俳書大系 3』(日本俳書大系刊行会 1926) に掲載。該当の句は p.19 にある。	